

3=1 地域組織の再編—分離型組織から一体型組織へ

地域の課題解決は、課題解決の取組みについて協議する場(振興会＝協議機能)と、課題解決を実行する団体(各種団体＝実行機能)に分かれた「**分離型組織**」(図表1-8上)で行われてきましたが、責任の不明確さや事務局となる公民館への依存が高く、住民参加の意識が希薄化していました。現行の組織からは他にも次のような問題点があげられました。

問題点

1. 情報伝達、指示系統の劣化 ……実行機能はあて職や輪番制で引継ぎ等が不十分
2. 人材育成の多様化 ……当該集落のことで手一杯で地区全体の活動をイメージできない
3. 所々の手続きの複雑化・硬直化 ……行政への情報が自治会ごとランダムに流れ、対応もバラバラ
4. 事業遂行の責任の所在の不明確化 ……事件・事故に対して責任が個人に
5. 仕事の細分化からくる調整事項の増加 ……多様化、高度化する地域課題の事務作業の増加

このように、問題点を洗い出し、組織運営と地域課題の因果関係を考慮した結果、協議機能と実行機能を併せもつ「**一体型組織**」に再編(図表1-8下)することで、**地域運営のコスト削減**や**事務作業の効率化**が図られ、スピード感のある課題解決が実践できると考えました。

予想される効果

1. 合意形成の容易さ ……部会の意見や事務局案について議論する場を体系化できる
2. 人材育成の一元化 ……課題の分野や計画執行上の必要な人材の抽出と育成が可能
3. 所々の手続きの単純化・効率化 ……自治会単位の行政との取次業務や手続き等をスピード化
4. 責任の所在の明確化 ……法人として事件・事故対応が可能になり、個人への責任は問われない
5. 会議等の集約化 ……総会の簡素化や各種会議回数等の改善
6. 行政とのワンストップ機能 ……地区と行政との危機管理の連絡網体制や取次事項の一元化
7. 多様な財源確保の可能性 ……補助金や助成金について様々な分野にチャレンジできる

Point

今までの組織構成の**問題点**や**改善点**を明確に示し、問題点を改善することでどのような**成果**や**効果**があるのか、住民にわかりやすく示す必要があります。

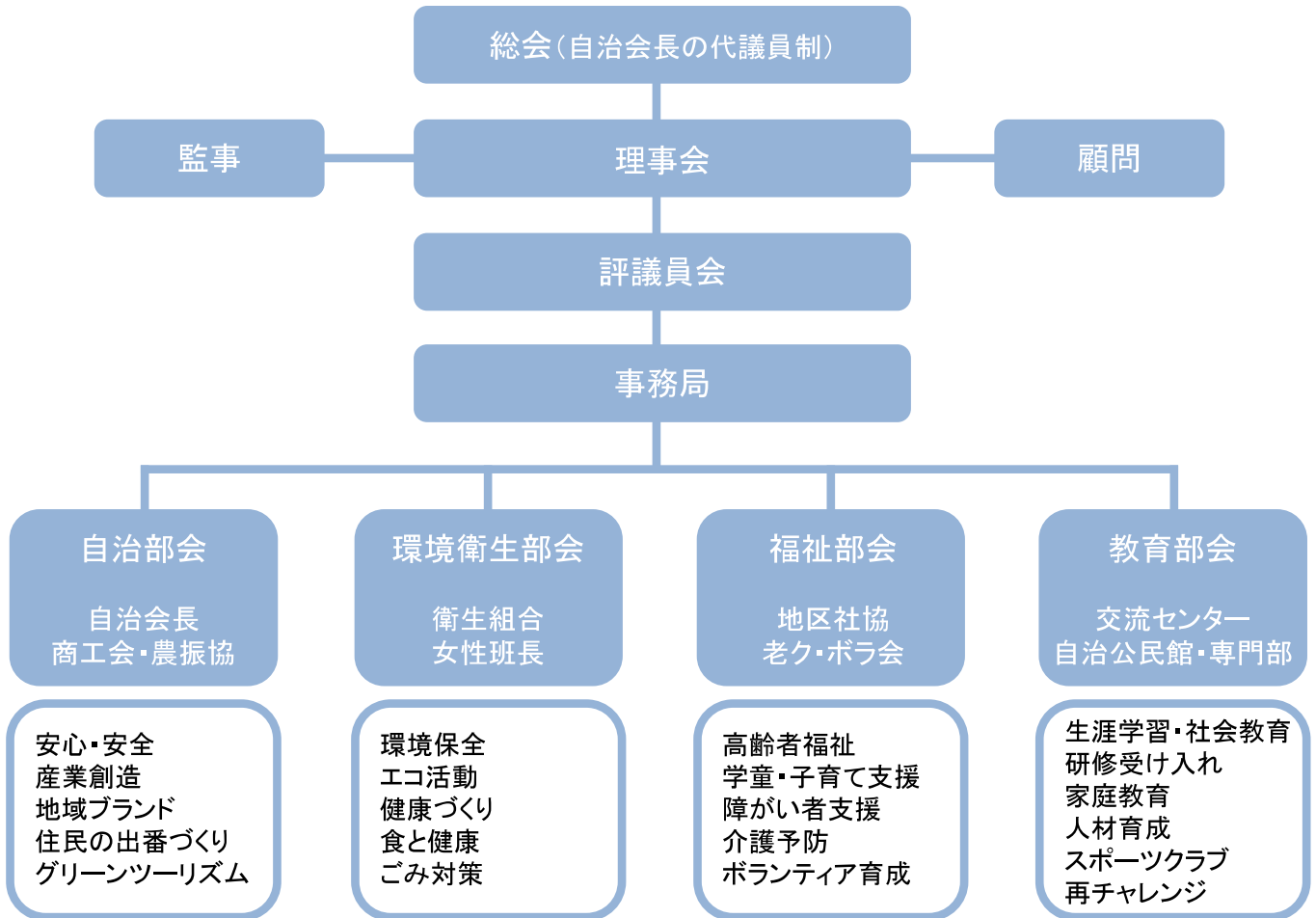
図表1-8 吉島地区の組織運営のイメージ



3-2 きらりの組織図

一体型組織へと再編されたきらりの組織図です。連携協力してきた既存の各種団体を、実行機能として各部会に編成しなおしました。

図表1-9 きらりの組織構成



区分	役割	構成
総会	地域づくりの最高決議機関	対象:全世帯 自治会長の代議員制
理事会	組織の事業会計等執行機関 事業、予算の執行	理事長・副理事長・理事
評議員会	組織の事業全般において必要に応じて評議	各専門部会から若干名
事務局	組織の事業、予算等の企画立案と運営	常勤職員(事務局長・事務局員) 非常勤職員(地区内若年層登用)
専門部会	総会で決議された事業等の実行	自治部会(自治会長会・防犯協会) 環境衛生(衛生連合・女性班長) 福祉(地区社協・ボラ会・老ク等) 教育(地区公民館・自治公民館)